



この暑さがいつまで続くのやら…とおもっていたら、朝夕はずいぶん秋らしくなりましたね

変化だから、まずは戸惑うよね

子どもたちが学校に帰ってきました。夏休みが嫌いなわけではないのですが、やはり子どもたちがいる学校は、とてもうれしい。2学期始業式には、4年生の代表のお子さんが、素敵な目標を読んでもらいました。心にじんとしみいる素敵なスピーチに、子どもたちだけではなく、教師もまた、ともに成長する一人であること、そして榆木小学校自体が成長する組織体であることを確信した次第です。



そんな4年生の学年キャッチフレーズは「誠実」「考動」「尊重」です。2学期のさらなる「成長」を期待させる2学期の始まりでした。

今号は、その「成長」ということについて立ち止まって考えてみたいと思います。私たち大人は、何よりも子どもたちの「成長」を期待してやまないものです。ただ、子どもたちにとっての「成長」とは、一体何なのでしょう。

もちろん、「成長」は素敵でうれしくて、いいもの。ただ、「成長」は必ず「変化」が伴います。子どもたちにとってのその「変化」は、まずは戸惑いを引き起こします。だって、今までと同じようには動かない（動けない）のですから。受け止めるまでに、時間がかかるはず。さらに、その変化が良いものかどうかの判断が難しい。大人は、その変化が良いもの（＝「成長」）かどうか、これまでの経験から割とわかっています。子どもは、その変化を正しく判断するには、経験値が少々心もとない。余計に戸惑います。

加えて、大人から褒められることでやっぱり良い変化だったんだと、素直に受け止められないこともあります。時には大人の言葉に疑心暗鬼になったり、はたまた思春期特有の反抗期が発動したり。人の「成長」には、いろんな心の動きが折り重なり、すんなりとは進まないものなのです。

だから、その一つ一つがドラマチックなのでしょう。

もちろん、様々な場面で色とりどりの成長が繰り広げられていると思います。ただ、その一つ一つが自覚され、身についているかというところでもないかもしれません。だからこそ、2学期始業式などの節目は、非常に大切に、その思いや目標を言葉にしていくスピーチは、思う以上に意味がある。

大切な思いや願いを言葉にしてくれた4年生代表のみんなが語ってくれたその言葉をかみしめながら、2学期も榆木っ子の「成長」を夢見る毎日になればいいなと思い、我々の思い出よりも少々早い8月29日の2学期始業式を終えて帰る子どもたちを見送りました。

※2学期始業式の様子は、榆木小ホームページ [「学校生活」](#) → [「8月」](#) をご覧ください。